

令和3年度 第1回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 令和3年6月20日(火)

午後3時から午後3時40分

場 所 木更津市役所朝日庁舎会議室A1

出席委員 井上美鈴委員、中務公明委員、薄葉良委員、田口謙作(阿部委員代理)、
草苺洋子委員、荒木弓夫委員、平野泰弘委員、清水寛委員、鈴木義信委員、
齋藤和利委員、長谷川宏美委員、水島亨子委員、鈴木清委員

1 開会

2 まなび支援センター所長挨拶

3 協議

- ① 令和3年度まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について
- ② 管内の青少年の現状について
- ③ その他

〔事務局から説明〕

本日はご多用中のところご出席いただきありがとうございます。

私は木更津市まなび支援センターで青少年を担当しております影山と申します。

よろしく願いいたします。

本協議会の委員の皆様におかれましては、今年度、委嘱2年目となりますが、
異動等によりまして、新しく委員になられた方が4名いらっしゃいます。

任期は木更津市まなび支援センターの設置及び管理に関する条例

第5条第3項によりまして、前任者の残任期間として、令和4年5月31日までとなっております。

どうぞ、よろしく願いいたします。

会に先立ちまして、ここでひとつ皆様にご承知願いたいことがあります。

本協議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公表されておりますが、
本日の傍聴人はありません。また、会議録は木更津市のホームページ上で公開されることとなります。
会議中は録音機により会議を録音いたしますのでご承知ください。

また、当地区にまん延防止等重点措置が取られたことから、会議時間を短縮させていただき
たいと存じます。

本日の会議につきましては、協議①として、まなび支援センターの運営方針について皆様の

ご意見を頂戴し、協議②として皆様が一同に会する機会でございますので、ご報告・意見交換をさせていただく予定であり、皆様には開催通知をお出しした際に、「管内の青少年の現状について」ということで、各委員のお立場からお話を賜りたいとお願いしておりましたが、このような状況となりましたことから、ご報告事項についてのご発言のみでお願いいたします。

大変お忙しい中、事前にご準備をいただいたことと存じますが、急な変更をいたしまして、大変申し訳ございません。どうぞ、ご理解いただけますようお願いいたします。

それではただ今から、令和3年度第1回木更津市青少年指導関係運営協議会を開催いたします。会議開催にあたり委員14名のうち、13名の出席により会議が成立いたしますことをご報告いたします。

それでは、今年度第1回目ということで、新しい方もいらっしゃいますので、お手元に配付してあります名簿順に簡単な自己紹介をお願いいたします。

自己紹介

それでは、協議に入ります前に、まなび支援センター所長の内海よりご挨拶を申し上げます。

内海所長あいさつ

〈事務局〉

ありがとうございました。

それでは、これより協議に入りたいと思います。木更津市まなび支援センター管理規則第3条第5項の規定によりまして、齋藤会長に議長をお任せいたします。

齋藤会長に座長をお任せいたします。よろしくをお願いいたします。

〈齋藤会長〉

会長の齋藤です。協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、協議にはいります。

協議事項の①令和3年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について、事務局説明願います。

〈内海所長〉

令和3年度まなび支援センター青少年指導関係活動の方針について説明

〈齋藤会長〉

事務局からの説明について、ご質問・ご意見等ございましたらお願いします。

ご質疑等ないようですので、報告事項に入ります。各委員からのご発言をお願いいたします。

〈中務委員〉

今、内海所長から本市の課題とネットパトロールを通じて説明がありましたが、本校や近隣地区も含めて、今、SNSが問題になっております。

学校の範疇を超えている事案に関しては、学校はどう関わっていくのかというところが

非常に難しいと感じています。あと、本校でいうと、全生徒の約9割が自転車で通学しており、一斉下校した場合、マナー等で苦情をいただいております。声をかけていただくことが非常にありがたいというふうに思っています。遠慮せずに、中学生ですので怖がらずに接していただければいいかなと思います。悪い子たちはほとんどいませんので、ぜひご協力をいただければありがたいなと思っています。

〈薄葉委員〉

不審者情報の件で、私の学校の方にも、市原地区とこの4市の地区の高校の情報がFAXで届くのですが、例年に比べると先週ぐらいまで、毎日のように木更津と市原で車に乗った不審者情報がありました。

昨年に比べれば、また非常に不審者情報が多いのではないかという気がします。それともう一点が薬物関係で高校の保健の授業で飲酒、たばこ、薬物等の授業を行うのですが、千葉地区の警察の方から、授業の方で活用できるものを提供いただき、薬物関係についてもっと重点的に指導してほしいと連絡がありました。

〈田口代理〉

児童相談所になります。

私たちの業務の中では、どちらかと言うとその集団と言うよりは、個々に関わることが多いかなという中で、最近特に目立っているのは、SNSを通じた交友関係の広がりということと、例えば家出をしたお子さんに関して、全国区になっていて、鳥取や沖縄だったり、そういった所の人と、交流していて、なかなか把握しきれないし、実態が掴みにくくなっていて、エスカレートしているかなと思っています。

ただ、こちらが把握している中でいうのであれば、単純に非行のお子さん等の件数は一昨年よりは減少傾向かなと思います。それが、コロナの影響とか別の要因とかもあると思い、一概に何かと決めつけている訳ではありませんが、その近場から遠くに行動範囲が広がり、見えない関係性が深まっていう中では、掴みづらいし、指導や支援がしにくくなっているのかなという状況を感じます。

児童相談所の方としては、実際問題、非行のお子さんに直接指導をすることは決して多い訳ではありませんが、お子さんと関わっている中で、その背景には学校の授業に係るもの、学校についていけなかったり、親との関係の中で、家の中に居場所が作れなかったりということが多いのかなと思うので、同時並行して、その子の居場所や居心地の良い場所、空間作りというところで、子どもたちの非行防止等で、役割になれるのではないかと考えています。

〈草苺委員〉

今回、初めてこの会に出席させていただきます。

青少年問題ということで、年齢層が上であると思って聞いていました。

私たち子育て支援課では妊娠期から18歳までの児童福祉法の範囲の中でケアを行っている課です。青少年問題に行く手前で、しっかりとした親子関係を築いてもらう、愛着を

作ってもらう等をやっている感じがします。課としては、平成30年から木更津ネウボラという、子育て世代の包括支援センターを持ち、妊娠期からとお子さんの発達の相談の方に特化した部門をつくりました。かなり、青少年問題の予防につながると考えています。

昨年はコロナで、事業も制約がありましたが、家庭相談の方では相談件数が増え、虐待の対応も行っているため、虐待等の児童相談の件数も過去5年で最高に多かったです。

家庭相談もDVの関連の相談も非常に多かったです。それについては家族間の希薄さなど、そういうものが大きく影響しているように感じますので、地道ではありますが、丁寧な相談や保健指導等、心掛けていきたいと考えています。

〈荒木委員〉

最近、コロナの関係等で学校と連絡が無い状態で、中学校、小学校からの要請も皆無でした。

近くの公園や近所等を注意していますが、目立った事故、事件はありませんでした。

〈平野委員〉

暫定値になりますが、昨年、木更津署で扱った数については、38人と言う事で前年度比マイナス1名となっております。こちらに、5月末現在では19名、前年度比マイナス3名となっております。万引きや自転車盗などが圧倒的に多いところであります。その他には、傷害、恐喝、職場狙い（アルバイト先の物を盗む）、そういったものが発生しております。

先程、薬物の話が出てきましたが、少年でも大麻所持といったことがございます。

続いて、補導の件数ですが、昨年中は230人で前年度比マイナス14名、5月末現在では78人、前年度比プラス5名となっております。

多いのはやはり、深夜徘徊、煙草等でその他には学校をさぼる怠学といったものがあります。

先程申し上げた、犯罪に関して、例えば傷害、暴行、恐喝と言ったものが、SNSの利用がトラブルになるといった事件が出てきて、件数も多くなっております。このSNSを使って大麻の売買ということもあるので、今後、SNSの使い方をよく教えていかなければならないというところがございます。

〈清水委員〉

管内の青少年の現状に関しては、先程警察署と児相から説明していただいたとおりです。裁判所は特にありません。

〈鈴木義信委員〉

木更津警察署少年警察ボランティアは、木更津警察署管内の木更津、袖ヶ浦の一中学校区に一名代表を決めて、主に青少年とのコミュニティを図ることを目的とし、生活、防犯指導を防犯指導員として、月2回袖ヶ浦駅、木更津駅周辺を午後7時から街頭指導を行っています。

また、主な事業としてダッチアームというソフトバレーボールを各中学校区を輪番で年

一回一校ずつ行い、青少年とのコミュニケーションを高めるため中学生を対象に行うのですが、昨年もコロナの影響で中止し、今年も清川中で11月頃に開催を検討しているのですが、こういう状況下ですので、8月までには判断し結論を出すと言う事で清川中と連絡を取り合っています。

パトロールの方は、このような中で制約を受けております。現在、まん延防止措置が発令中でありますので、状況を判断して中止しています。措置が解除されたのち、活動を再開していこうということになっております。

〈長谷川委員〉

青少年相談員は、毎年、少年少女の主張大会をしておりまして、小学校は作文、中学校は川柳を書き添えていただき、市民会館の中ホールで発表していただきましたが、昨年からはコロナの影響で、直接会場では行わず、賞を取った方の声を録音して、かずさFMで放送してもらう形で開催しております。今年もその形で開催する予定です。

それぞれの学校については把握しきれないのですが、清川中については、清見台体育館前の花壇や小学校の通学路に花を植える活動や、祇園小では、毎年クリスマスにクリスマスツリーを飾りますが、3校舎の内、2校舎に飾っていましたが、今年は飾りを買って、3校舎に飾り、子どもたちにクリスマスを楽しんでもらう活動を行う予定です。

〈水島委員〉

例年ですと、いろいろな行事が始まり、それぞれ活動をし始めている頃ですが、昨年に引き続きコロナ禍で5月に行われる総会も中止になりました。

お母さんたちが楽しみにしているママさんバレー大会も、県の大会の中止が発表されまして、それに合わせて木更津市の方も今年の大会は中心になりました。

夏の講演会や冬のPTAの研修旅行も中止の予定です。このような中、各校の情報交換ができていない状況で、各学校のPTAの方々がどんな活動を学校でされているのかということが本部では分からず、また、機会を見て学校が何をやっているのかという情報がありましたら、お話できればと思っております。

〈齋藤会長〉

ありがとうございます。学校での活動ということで、何か聞いてみますか。

〈水島委員〉

PTAの方たちがどのような活動をされているのか、全然情報として入っておらず、お話をする場が無いので分かりません。

〈中務委員〉

学校によってさまざまだと思うのですが、本校については、月々の運営委員会は実施させていただいております。情報交換はなるべくして行こうとしています。短時間でやるような状況で、できることを本当に丁寧にということ、あまり無理をしない方向で行っています。

〈鈴木清委員〉

こども会は毎年同じような話ですが、会員が減っています。今回、コロナ禍の中で、まして減って、活動ができないような状態で、ただ、その中でできることをやろうということで、各子ども会がそれなりに頑張っていると思います。

市子連という、市の団体がありますが、市子連の組織や事業の見直しということで、今年度大幅な組織の見直しを行い、今まで、体育部や文化部等いろいろありましたが、それを企画事業部ということで、子ども会の会員と子ども会とみんなで相談して、みんなで企画してやることになりました。あと、広報で子ども会新聞を作り、子ども会のPR等をしたり、新しい部署として子ども相談部を作り、各子どもの相談ごとを受けます。各子ども会に入ると役員をやらなければいけない。そうすると役員になると悩みとかいろいろあるだろうからとその辺の話を聞くことができ、それが次に繋がれば良いかということで、新しい企画を実施しているところです。

〈齋藤会長〉

私は、青少年補導員ということで、先程、まなび支援センターの所長の方から説明があったとおり、我々補導員は、愛の一声運動、街頭指導、後はJR乗車マナーという形で活動させていただいております。

〈井上副会長〉

木更津市教育委員として来ておりますが、中、高とお話していただきましたので、大学の短大生について、18歳から20歳位までの学生の状況ですけれども、コロナ禍がなかなか収束しない中で、だいぶ、小中高の生徒もそうだと思いますが、だいぶ付き合い方に慣れてきたのではないかというふうに感じます。メンタルヘルス上も当初、どういふふうに不安を抱いてよいか分からなかったけれども、このコロナウイルスに対して、どうすれば予防できるのかということに慣れてきた。一方、慣れすぎてしまったこともあり、木更津市は都内と違い、爆発的にということでは無いため、少し気の緩みがあるのではないかと思います。いずれにせよ、慣れてきているという状況があります。

大学生はなかなか厳しい状況で、今まで対面でやっていたものが、昨年度は全て、前半はオンラインになって、メンタル、精神衛生を維持することが非常に難しかったのですが、今年は、そのような中でも、対面の授業が増え、交流もあるので心理的安定が昨年度よりは良いかなと思います。

一方、家庭不和、家庭が不安定ですと、外に行けないですね。なので向き合わざるを得ない。家庭の中での状況に目が向きやすくなるという、先程DVの件数が増えたというお話を草苺委員からいただきましたけれども、なかなか不安定の中、安定した場が無いという学生にとっては厳しい状況が続くというような状態でしょうか。最終的に乗り切るには、このまなび支援センターの幼少期から青年期までの一貫した子育て支援とありますが、幼少期の親子関係の安定化に尽きるのではないかと非常に強く感じています。

〈齋藤会長〉

ありがとうございました。まだ、時間が多少ありますので、ここで知っておきたいこと

等々、挙手をお願いして質問を受けます。

どうでしょうか。よろしいでしょうか。

時間の制限もございますので、事務局へお返しして、私の方は終わりにします。

〈事務局〉

ありがとうございました。

それでは、次回以降の会議についてご説明申し上げます。

会議資料にも記載してありますが、次回第2回の運営協議会は10月19日（火曜日）に開催の予定です。第3回は令和4年2月15日（火曜日）を予定しています。会場は木更津市市役所朝日庁舎内を予定しています。

委員の皆様方におかれましては、今後とも青少年健全育成のために、それぞれの立場でご尽力いただきますとともに、当センターの運営に、ご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。本日の会を閉会いたしたいと思っております。ご協力ありがとうございました。